

「武蔵野の面影残る神代植物公園と深大寺を散策」

通信員 水間 英夫

今回で第18回目となるJAM東京シニアクラブ「東京・街歩き」は、10月17日にまだ武蔵野の面影が残る調布の「神代植物公園」から、「深大寺」を散策した。午前10時、JR中央線の「三鷹駅」に集合。肌寒さを感じるあいにくの小雨でしたが、ご夫婦を含む41名が参加した。

まず、路線バスで移動して、「神代植物公園」での自由散策。4,800種類、10万株の植物が植えられており、大温室も備え四季を通じて草木の姿や花の美しさを味わえることで有名で、この時期は秋バラ、さざんか、などがベストシーズン。大温室では、珍しい熱帯植物に囲まれた通路を進み、蘭のコーナーでは、彩り鮮やかに花が咲き誇り、種類も多いことからつい見入ってしまう方も多く見られた。なかでも、チョコレートの香りのする蘭には驚きでした。

バラ園では、小雨にも関わらず時も忘れて撮影に没頭する人、バラの間をゆったりと散策しながら、ほのかな香りを楽しむ人など、傘の花を咲かせて思い思いに楽しんでいました。その後小雨をうらめしく思いつつ、深大寺に向かう。深大寺は奈良時代・天平5年(733年)に開かれた大変な歴史ある古刹。ここでも自由散策でしたが、多くの方がまず向かったのは、今年、国宝に指定された「釈迦如来像(通称:白鳳仏 飛鳥時代・国宝)」で、穏やかな優しい表情にはついつい魅入ってしまい、自然に手を合わせてしまう。その後、座像2mの「元三大師像」、本堂の「宝冠阿弥陀如来像」で手を合わせ、多くの方が、心が洗われる思いをしたのではないのでしょうか。散策を楽しんだ後は、お待ちかねの昼食。

深大寺山門を出たすぐの所の「門前」というお蕎麦屋さんで、今年度から新会長となった長岡さんの乾杯でスタート。肌寒さの中での散策でしたが、ビールもおいしく話も弾み、名物の深大寺蕎麦に皆さんご満足の様子。食後のデザートが済んだ頃、改めて長岡会長の締めのご挨拶をいただき、次回の「街歩き」での再会を約束しながら解散した。

